

1.2 経済学の方法

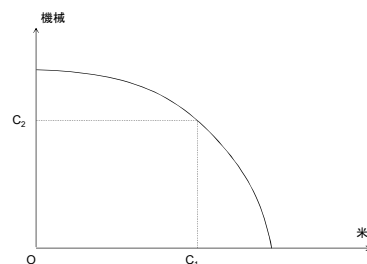
経済の基本問題

- 経済の基本問題
 - どのように
 - なにをどれだけ
 - だれにどれだけ、生産し、配分するか
- 配分(Allocation):
 - 分け方、あるいは分けた結果
 - 経済の基本問題 = 資源配分の問題
- 分配(Distribution):
 - 主に所得の分け方、所得分配

市場メカニズム

- 経済の基本問題
 - 資源配分の問題
 - 何を、どのように、どれだけ生産し、誰に、何を、どれだけ配分するか
- 市場経済
 - 財の価格を媒介として、自由な意志に基づいた取引により、資源配分の問題を解決

生産可能曲線 (1)



生産可能曲線 (2)

- 生産可能集合(Production Possibility Set):
 - 一定の資源から生産できる財の組み合わせ
- 生産可能曲線(Production Possibility Frontier)
 - 生産可能集合の中で、できるだけ多く生産される場合
 - 生産可能性フロンティアとよばれる
 - 生産可能集合の右上の境界
- 生産可能集合の点
 - 内側：より多く生産できる → 非効率的
 - 生産可能曲線上：両方同時に増やせない → 効率的
 - 外側：今の資源では、生産できない

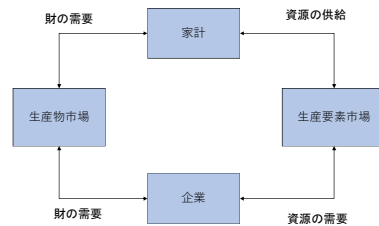
生産の決定

- 生産の選択と生産可能曲線
 - 生産可能曲線上の点 = 効率的生産
 - 効率的な生産 ← 効率的な資源の組み合わせ
 - 効率的な生産方法、技術
 - 生産可能曲線上の点 = 何をどれだけ生産するか
- 経済の基本問題
 - どのように
 - 何をどれだけ → 生産可能曲線上の点の選択

シグナルとしての価格

- 価格が運ぶ情報
 - 利用可能な技術 → 供給量
 - 資源の存在量
 - 家計の選好 → 需要量
- 市場と価格
 - 市場において、需要と供給は価格により調整
 - 需要量 > 供給量 → 価格上昇
 - 需要量 < 供給量 → 価格下落
- 企業、家計は価格だけを見ればよい

経済循環



市場を通じた資源配分

- 資本主義経済
 - 市場を通じて、資源配分・分配の問題を解決
- 貨幣の流れ
 - 生産物市場： 家計 → 企業
 - 「何をどれだけ」
 - 生産要素市場： 企業 → 家計
 - 地代、賃金、資本のレンタル価格の決定により、所得分配が決定
 - 「誰にどれだけ」

一般均衡理論

- 一般均衡理論
 - すべての財および生産要素の市場とその関連を、同時に分析する理論
- 部分均衡理論
 - 単純化のため、ただ1つの財あるいは生産要素の市場だけに議論を限定する
 - 他の事情を一定として

部分と全体

- 部分均衡理論への注意
 - 経済主体間の相互依存関係、多数の市場の相互依存を無視すると、誤った結論に導かれることがある
- 合成の誤謬：
 - 一部分についての正しいことを、全体についても正しいと錯覚すること
 - 映画 ビール会社の値下げ 新肥料による増産

公正の問題

- 市場による資源配分の解決
 - 一部の人が所得の大部分を占める可能性
 - 所得再分配政策
 - 市場は、公正の問題は解決しない
- 平等・公正の判断
 - 規範的な問題
 - 何らかの価値基準が必要
 - 社会制度によって異なる

1.3 市場経済の効率性

資源配分の方法

- 資本主義経済
 - 市場（価格）によって経済の基本問題を解決
- 計画経済
 - 中央当局が計画し、資源を配分
- その他
 - 年齢の高いものからほしただけ取っていく
 - 美しい人から順にとる
- 市場経済は何がいいの？

分業の役割

- 特化
 - 特定の財の生産に、あるいは特定の生産プロセスに専門化すること
- 分業
 - 各人が得意な分野に特化して生産活動を行う
- 市場経済の効率性
 - 「見えざる手」により、特化・分業
 - 交換できる（市場がある）から、分業できる
 - 特化して分業するほうが効率的？

効率性

- 1時間にできること
 - 太郎：パンを2個 魚4匹
 - ベティ：パンを4個 魚2匹
- 特化と不完全特化
 - 不完全特化：各人30分ずつパン焼き、魚釣り
 - 完全特化：太郎は魚釣り、ベティはパンに1時間

	太郎	ベティ	計
パン	1個	2個	3個
魚	2匹	1匹	3匹

	太郎	ベティ	計
パン	0個	4個	4個
魚	4匹	0匹	4匹

絶対優位

- 絶対優位（Absolute advantage）：
 - 同じ時間で、より多くできる
 - 同じ量を生産する場合、より早くできる
 - 太郎は魚釣りに、ベティはパン焼きに絶対優位を持つ
- 分業の効率性
 - 絶対優位を持つ活動に特化して分業
 - → 2人合わせてより多く生産
 - → 社会的に効率的

機会費用（1）

- 絶対優位を持たない人がいる場合
 - どの財の生産にも絶対優位を持たない人は足手まといか？
→ 分業は効率的？
- 1時間にできること
 - 太郎：パンを2個 魚4匹
 - ベティ：パンを1個 魚1匹
- 機会費用
 - ある財を手に入れるために失うもの

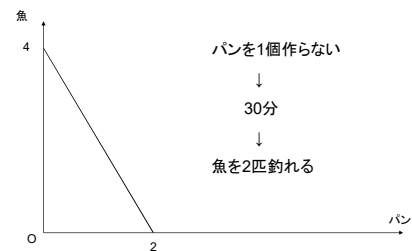
機会費用 (2)

- 選択と機会費用
 - ある選択肢を選択 → 他の選択肢をあきらめる
 - ある選択の機会費用 = あきらめた選択肢の価値
- パンの生産の機会費用
 - パンを生産する = 魚釣りをする機会を犠牲

	太郎	ベティ
パン	2個	1個
魚	4匹	1匹

	太郎	ベティ
パン1個の機会費用	魚2匹	魚1匹
魚1匹の機会費用	パン1/2個	パン1個

生産可能曲線と機会費用



比較優位

- 比較優位
 - 他の人より小さい機会費用で生産できること
 - より少ない犠牲で生産できる
 - 太郎は魚釣りに、ベティはパン焼きに比較優位を持つ
- 比較優位と分業
 - それぞれが、比較優位を持つ財の生産に特化して分業
 - 比較優位 — 機会費用
 - 失うものの価値 — 市場価格
 - 大工仕事が得意な医者
 - ワープロが得意な社長

価格の役割

- 価格の役割
 - 情報の伝達
 - 消費者や生産者の行動を促す刺激
 - 価格を観察して、比較優位にある仕事に特化
- 裁定取引
 - さやとり、安く買って高く売る
 - 価格によって促される行動
 - トイレットペーパー
 - 需要や供給の情報がなくても、価格を見るだけ

今日の問題